

①研究業績

1. 著書

- ・「ケンブリッジ実用英単語 (初級編)」Michael McCarthy, Felicity O'Dell、渡辺雅仁訳、Cambridge University Press、2012年12月 (翻訳)
- ・「アメリカンキッズ えいご絵じてん」ダニエル・J・ホックステイター、渡辺雅仁訳、玉川大学出版部、2011年7月 (翻訳)
- ・「マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編)」Raymond Murphy, William R. Smalzer、渡辺雅仁・田島祐規子訳、Cambridge University Press、2011年11月 (翻訳)
- ・「マーフィーのケンブリッジ英文法 (中級編)」Raymond Murphy, William R. Smalzer、渡辺雅仁・田島祐規子訳、Cambridge University Press 2010年11月 (翻訳)

2. 論文

- ・「コミュニケーションのための英文法」、渡辺雅仁、横浜国立大学大学教育総合センター紀要、査読有、第二号、71-98頁、2012年8月
- ・「横浜国立大学生の英作文上の問題に対応する指導」、渡辺雅仁、横浜国立大学大学教育総合センター紀要、査読有、第一号、50-61頁、2011年8月

3. 科研費実績

- ・「基盤研究 (B)」2232010、平成22年度～平成24年度、「小学校英語活動支援のための大学リソース活用モデル構築」、研究代表者・中村良夫、直接経費総額670万円(研究分担者)

4. 学会発表・他

- ・Teacher's roles in ELF intercultural communication、Masahito Watanabe、The Sixth International Conference of English as a Lingua Franca、2013年9月

②社会活動

- ・日本英語学会理事
- ・Euro CALL 会員、筑波英語教育学会会員、JALT 会員

③学内活動

- ・国際戦略推進機構専門委員会委員
- ・英語教育連絡調整会議委員
- ・教育学研究科大学院運営委員会委員
- ・教育学研究科教育インターン小委員会委員長
- ・情報基盤センター仕様策定委員会委員

①研究業績

1. 著書

・“Classroom Research in the Field of Language Education”、満尾貞行、井田好治先生米寿記念論文集編集委員会編「井田好治先生米寿記念論文集」、平成 22 年 東京教学社、2010 年 12 月

2. 論文

・「新学習指導要領と英語キャンプ」満尾貞行、東京純心女子大学紀要、査読有、13 号、79-93 頁、2009 年 3 月

・“Classroom Research for Foreign Language Classes”、満尾貞行、横浜国立大学大学教育総合センター紀要、査読有、第二号、51-70 頁、2010 年 7 月

・「小学生のための英語学習オンラインプログラムの可能性」、満尾貞行、ARCLE REVIEW 研究紀要、ベネッセ教育総合研究所、査読有、No. 7、79-89 頁、2013 年 3 月

・「学習者の英語への関心・意欲—高学年～中学校 1 年夏と 3 年夏—」、満尾貞行、ARCLE REVIEW 研究紀要、ベネッセ教育総合研究所、査読有、No. 8、56-70 頁、有、2014 年 3 月

・「公立小学校教員の外国語活動指導力アップのための研究 Part1」、満尾貞行、横浜国立大学教育科学部紀要 I、査読無、13 巻、175-187 頁、2010 年 10 月（科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号 21530961)

・「英語教育と小・中連携—学習者の関心・意欲を探る研究 Part1」満尾貞行、中村良夫（研究代表者）『小学校英語活動支援のための大学リソース活用モデル構築』科学研究費補助金 基盤研究 (B) 課題番号 22320100 平成 23 年度分研究成果報告書、U-POC、査読なし、78-102 頁、2012 年、3 月

3. 科研費実績

・「基盤研究 (C)」21530961、平成 21 年度～平成 24 年度、「公立小学校教員の外国語活動指導力アップのための研究」（個人研究）、研究代表者・満尾貞行、直接経費総額 260 万円

・「基盤研究 (B)」22320100、平成 22 年度～平成 24 年度、「小学校英語活動支援のための大学リソース活用モデル構築」、研究代表者・中村良夫、直接経費総額 670 万円（共同研究）

4. 学会発表、他

(1) 報告書（2 件）

・The 45th Annual TESOL Convention and Exhibit、満尾貞行、横浜国立大学大学教育総合センター紀要、第一号、45-49 頁、2010 年 7 月等

(2) 口頭発表 (3件)

・「YNU freshmen's autonomous learning」満尾貞行、横浜国立大学大学総合教育センター英語教育部 23 年度研修会、2011 年 9 月等

(3) 招聘講演 (10件)

・「外国語活動の進め方および授業評価と分析」満尾貞行、中野区教育委員会主催、中野区立丸山小学校 (対象：中野区公立小学校教員対象) 2011 年 2 月

・「“Hi, friends! 2” を用いた授業」満尾貞行、八王子市教育委員会・八王子市小学校教育研究会主催、八王子市立みなみ野君田小学校 (対象：八王子市小学校教育研究会・八王子市立小学校外国語活動部員)、2012 年 11 月

・「これからの小学校英語教育」満尾貞行、横須賀市教育委員会主催、横須賀市立野火小学校、(対象：横須賀公立小学校教員)、2014 年 2 月等

(4) 監修、他 (13件)

・「オンライン英会話モニターレッスン 英語能力発達調査」満尾貞行監修・企画協力、平成 24 年 2 月より平成 24 年 7 月まで ベネッセコーポレーション、2012 年 2 月~2014 年 7 月等

②社会活動

・八王子市立小・中学校外国人外国語等学習指導補助者 (ALT) 選定委員 (2009.2~2009.3.31、八王子市教育委員会)

・JACET 関東大会副委員長 (2012.6)

・科学研究費委員会専門委員 (2013.12~2014.11、日本学術振興会)

・「グローバルに対応した英語教育実施計画」英語教育強化地域拠点事業企画評価会議委員 (2014.3、文部科学省)

・小学校英語教育学会会員、日本児童英語教育学会会員、TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) 会員、JALT 会員、JACET 会員

③学内活動

・英語教育連絡調整会議委員

・研究科教育デザイン・インターンWG

・国際戦略推進機構 ときわの杜論叢委員 (長)

・YOKOHAMA クリエイティブシティ・スタディーズ特別プログラム WG

・横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 平成 22 年度、23 年度、24 年度、25 年度研究発表会 研究協力と講演

①研究業績

1. 著書

- ・ Developing TOEFL Skills, Second Edition, Lin Lougheed, Masahito Watanabe, Yukiko Tajima, マクミランランゲージハウス、2010年1月
- ・ 「Plus One Readings (高校英語教科書)」 笠原究・田島祐規子・アントワヌ ステビンズ、開隆堂出版社、2010年4月
- ・ 「マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編)」 Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺雅仁・田島祐規子訳、Cambridge University Press、2011年11月 (翻訳)
- ・ 「マーフィーのケンブリッジ英文法 (中級編)」 Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺雅仁・田島祐規子訳、Cambridge University Press 2010年11月 (翻訳)
- ・ 「TOEFL ITP(R)テスト 学習スタートブック」 松本恵美子・クレイグブラントリー・松岡昇・宮野智靖・渡辺雅仁・田島祐規子、Jリサーチ出版、2013年12月

2. 論文

- ・ 「自己評価票を用いた「RLG テスト」の形成的利用」 田島祐規子・加藤千博・村上嘉代子・前川浩子、中部地区英語教育学会紀要、査読有、第43号、2014年5月 (発刊予定)
- ・ 「大学初年次英語教育における「RLG テスト」の形成的利用法」 田島祐規子・加藤千博・村上嘉代子・前川浩子、中部地区英語教育学会紀要、査読有、第42号、167-174頁、2013年5月
- ・ 「二テストから観察する初年度生の英語力」 田島祐規子、横浜国立大学大学教育総合センター紀要、査読有、第2号、27-34頁、2012年8月
- ・ 「「RLG テスト」の形成的利用に向けてーレベル別英語指導への提案」 田島祐規子・加藤千博・村上嘉代子・前川浩子、中部地区英語教育学会紀要、査読有、第41号、45-52頁、2012年5月
- ・ 「日米メールプロジェクト」 田島祐規子、横浜国立大学大学教育総合センター紀要、査読有、第1号、36-44頁、2011年8月
- ・ 「「RLG テスト」の信頼性と妥当性の検討および形成的利用法に関する研究」 田島祐規子・加藤千博・村上嘉代子・前川浩子、中部地区英語教育学会紀要、査読有、第40号、127-134頁、2011年5月

3. 科研費実績

- ・ 「基盤研究 (C)」 25370722、平成 25 年度～平成 27 年度、「大学初年

次生を対象とした英語基礎力測定テストの開発及びその形成的利用法の構築」、研究代表者・加藤千博（共同研究）

4. 学会発表・他

・“An analysis of RLG Test score and its formative use for Japanese university freshmen”、Tashima Yukiko, Kayoko Murakami, Chihiro Kato, 第 52 回 JACET（大学英語教育学会）京都大会 平成 25 年 8 月

・「RLG テスト自己評価表の形成的利用」村上嘉代子・田島祐規子・加藤千博・前川浩子、第 43 回中部地区英語教育学会富山大会、2013 年 6 月

・「RLG(語彙・文法)テストの形成的利用法—TOEIC400 点および 600 点を獲得するには—」加藤千博・田島祐規子・村上嘉代子・前川浩子、第 42 回中部地区英語教育学会岐阜大会、2012 年 6 月

・「RLG テストの形成的利用に向けて-レベル別英語指導への提案」加藤千博・田島祐規子・村上嘉代子・前川浩子、第 41 回中部地区英語教育学会福井大会、2011 年 6 月

・「「大学標準英語学力テスト (RLG テスト)」の信頼性と利用法」加藤千博・田島祐規子・村上嘉代子・前川浩子、第 40 回中部地区英語教育学会石川大会、2010 年 6 月

②社会活動

・TESOL（英語教授法国際学会）/JACET（大学英語教育学会）/CELES（中部英語教育学会）会員

・NPO 法人陸前高田市支援連絡協議会 AidTakata 広報英訳ボランティア

・平成 25 年 10 月横浜国立大学サイエンスカフェ講師

③学内活動

・英語実習科目担当

・学内英語統一テスト準備運営を含む英語教育部関連事務作業

・全学教育部会委員

・英語教育部 多読文庫の管理と整備

・多読本の読書会実施

① 研究業績

1. 著書

・「Sunshine English Course 1, 2, 3（文部科学省検定中学校教科書）」、
迫村純男、安間、一雄、高塚成信、深沢清治、Raeside, James、Cannon, Tara、
開隆堂出版

2. 論文

・“Transitions in Japan’s National Branding: Recent Developments and
Potential Future Directions to Facilitate Small Business Entries
Overseas” 「日本の国家ブランド化の推移: 近年の進展と、中小企業の海外
進出促進に向けた将来とすべき方向性」 Cannon Tara、横浜国立大学大学教
育総合センター紀要、査読有、第二号、107-120 頁、2012 年 8 月

3. その他

・「生態系と生物多様性の経済学報告書ビジネス編（第 3 部）（TEEB D3）」
（原文「The Economics of Ecosystems and Biodiversity: TEEB for
Business (TEEB D3)」）キャノン タラ監訳、公益財団法人 地球環境戦略
研究機関、224 頁、2011 年 9 月（翻訳）

・「International Harmonization of Economic Regulation」（『経済規制
の国際的調和』）Junji Nakagawa、Cannon Tara・Jonathan Bloch 訳、
Oxford University Press、2011 年 12 月（翻訳）

・「Messages from Japan’s Green Pioneers: Environmental Protection」
（「特集：世界に伝える日本の環境取組の優れもの」）、Cannon Tara 監
訳、環境省自然環境局自然環境計画課、219 頁、2010 年 10 月（翻訳）

・「Messages from Japan’s Green Pioneers: Living in Harmony with
Nature」（「世界に伝える日本の自然共生」）Cannon Tara 監訳、環境省
自然環境局自然環境計画課、192 頁、2010 年 12 月（翻訳）

・「The Japanese industrial waste experience: Lessons for rapidly
industrializing countries」国連環境計画国際環境技術センター
（UNEP/IETC））、2014 年 3 月（単独英文校閲校正）

・「Application of the Sustainable Assessment of Technologies (SAT)
Methodology – Guidance Manual + Annexes」国連環境計画国際環境技術
センター（UNEP/IETC））、164 頁、2012 年（単独英文校閲校正）

・「Compendium of Recycling and Destruction Technologies for Waste Oil」
国連環境計画国際環境技術センター（UNEP/IETC））、170 頁、2012 年
11 月（単独英文校閲校正）

4. 学会発表・他

・ Keynote Speech、Cannon Tara、International Conference on Economic
and Social Sustainability 2013、2013 年 9 月 30 日（基調演説）

②社会活動

・ 一般社団法人持続的経済・社会国際交流会諮問委員 Global Network for
Economic and Social Sustainability (GNESS) Advisor

・ Duke University Alumni Affairs Committee、日本担当

・ Symposium on Low Carbon Asia Research Projects 低炭素社会国際研究
ネットワーク（2011）参加

・ International Conference on Building Partnerships for Moving towards
Zero Waste（2011）参加

・ International Consultative Meeting on Expanding Waste Management
Services in Developing Countries（2010）参加

③学内活動

・ 国際教育シャトルベース事業ワーキンググループ

①研究業績

1. 著書

- ・“The Nominative/Accusative Alternation in the Transitive Adjective Construction in Modern Japanese: An ANOVA Analysis”、Hideki Maki, Kana Ito, Megumi Hasebe, Kenichi Goto, Michiyo Hamasaki, Takashi Munakata, Yukiko Ueda、Yukio Otsu(ed)、The Proceedings of the Tenth Tokyo Conference on Psycholinguistics、ひつじ書房、167-191 頁、2009 年 11 月
- ・“The Division of C-I and the Nature of the Input, Multiple Transfer and Phases”、Takashi Munakata、Kleanthes Grohmann(ed.)、InterPhases、オークスフォード出版局、48-81 頁、2009 年 3 月

2. 論文

- ・“The MET 8: Its Correlation with the University Entrance Examination (English Part) 2011”、Hideki Maki, Shogo Tokugawa, Megumi Kato, Mizuki Sugiyama, Megumi Hasebe, Chise Kasai, Toshiro Umezawa, Yuko Yumoto, Michiyo Hamasaki, Yukiko Ueda, Kosuke Nagasue, Hironobu Kasai, Takashi Munakata, Jessica Dunton、Bulletin of the Faculty of Regional Studies, 岐阜大学地域科学部、31 巻、51-59 頁、2012 年 9 月
- ・“Japanese Double Plural Form: Its Behavior and Implication”、Takashi Munakata、Matthew A. Tucker, Anie Thompson, Oliver Northrup, Ryan Bennett(ed)、Proceedings of the fifth Formal Approaches to Japanese Linguistics conference: Formal approaches to Japanese linguistics 5、MITWPL、197-206 頁、2012 年
- ・“The Minimal English Test: Its Correlation with the University Entrance Examination (English Part) 2010”、Hideki Maki, Shogo Tokugawa, Megumi Kato, Miho Tagashira, Megumi Hasebe, Chise Kasai, Toshiro Umezawa, Takashi Munakata, Jessica Dunton、Bulletin of the Faculty of Regional Studies, 岐阜大学地域科学部、28 巻、51-58 頁、2011 年 2 月

4. 学会発表・他

- ・“Types of Wh-License: Intermediate Agree and its Consequence”、Takashi Munakata、National Kaohsiung Normal University、2013 年 3 月 20 日 (招待講演)

- ・「英語学と英文法の接点」宗像孝、慶應義塾大学政策・メディア研究科 CAMILLE 研究会、慶應義塾大学、2010年9月29日（招待講演）
- ・“Japanese Double Plural Form: Its Behavior and Implication”、Takashi Munakata、Workshop in Formal Approach to Japanese Linguistics 5, FAJL 5 Organizing Committee、カリフォルニア大学サンタ・クルーズ校、2010年5月8日（ポスター発表）
- ・“The Minimal English Test: A Revised Version”、Maki Hideki, Sarenqimuge, Juri Yoshimura, Yuki Makino, Megumi Hasebe, Kenichi Goto, Takane Ito, Yoko Yumoto, Saotshi Oku, Michiyo Hamasaki, Yukiko Ueda, Kosuke Nagasue, Hironobu Kasai, Takashi Munakata, Jessica Dunton、The 17th Korea TESOL International Conference、淑明女子大学校、2009年10月24日
- ・“The Division of C-I and its Consequences”、宗像孝、南山比較統語論国際共同研究プロジェクト：第4回ワークショップ、南山大学、2009年7月26日
- ・“The Nominative/Accusative Alternation in the Transitive Adjective Construction in Modern Japanese: An ANOVA Analysis”、Hideki Maki, Kana Ito, Megumi Hasebe, Kenichi Goto, Michiyo Hamasaki, Takashi Munakata, Yukiko Ueda、TCP 2009, Tokyo Conference on Psycholinguistics、慶應義塾大学、2009年3月13日

②社会活動

- ・文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要 査読（2012~2013）
- ・国際基督教大学特別学習支援室、障がい学生支援コーディネーター・教育相談担当（2008.4~現在に至る）